
魔法少女リリカルなのは？ V S 魔法少女まどか まじか？ これはゾンビですか？

バック・ジャウアー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは？VS魔法少女まどか まじか？ これはゾンビですか？

【Nコード】

N9364U

【作者名】

バック・ジャウアー

【あらすじ】

え〜と……ホイミンです（汗）
なんか気がついてたら、SSを書くことになってて（苦笑）
まあ小説では（笑）とかは使いませんのでこのあらすじは気にしないでね♪

ちなみにさらっとあらすじを言うと、リリカルなのはやその他諸々のアニメのキャラが出てきて、ドタバタsちゃうのね。ちなみに主人公はグラハムやパトリックなどの、タイトルにほとんど関係の

無い奴らと、機動六課の皆さんが、まどかの世界での魔女について、色々する——DEATH

元ネタはガンダムやその他諸々です。まあそこは流してと。(二次創作だからこれはウォーミングアップとして適当に書くよ。あまり期待しないでよね！)

あと、これは不自然なほどにバトルをいれていくよ。だって苦手は克服せなばね。それとこれを読んだらアドバイスくださいね！まどか派の人は親切の人が多かったから、期待してるよ。

→あらずじなの

苦手を克服するのは難しい？ そんな道理は私の無理でこじあける！

いや、俺はガンダムだ！（前書き）

感想は絶対にくださいよ

ちなみに年齢設定とかは超おかしいです

いや、俺はガンダムだ！

「始めましてだな〜！ ガンダム！ グラハム・エーカー——君に心奪われた男だ！」

（うむ、決まった！ 今の私は凄く決まっていた！ なかなか私もやるな……）

今、この私、グラハム・エーカーは、現在戦場にいる。しかも、目前には——ガンダム（？）が！ まあさつき（？）と付けた通り、今私と対峙している相手は少しだけガンダムの要素を満たしていない。

確かに、白と青のカラーリングに、あの砲撃の粒子の色、あだ名が白い悪魔と言う点には、ガンダムに違いはないのだが、あれはいつものガンダムとは少し違う気がする。

「あの〜、パイロットさん？ 何か勘違いしてない？ ってゆーかその声は、ヴァイス陸曹だね？」

ガンダムは、不思議そうな顔をして、私に向かって語りかけてきた。ヴァイス陸曹って一体誰だ？

そう、今ので読者の諸君は気づいたと思うが、私の感じている違和感。それは、表情を変えたり、話したり、サイズが小さかったり、なんか人間みたいと言う所なのだ。

うん？ なんだ！？ どくしゃの諸君から冷たいまなざしを感じる！ 何故、そんなまなざしを？ さては私がかしてはいけない事をしてしまったのか？ それとも私と目の前にいるやつとの出会いを飛ばしてまどかとなのはの話を聞かせると！？

……どうやら両方とも正解という訳だな。だがそれはできんよ！ 何故なら、まどかとなのはの話は、今から見て過去に起こった話だからな！

——ん？ 何故まだその様な目をしている？ 少しは諦めたらどうなんだ？

く、な、何故こつちに寄ってくる！？　そこまでしてまどかとなのはの話を見たいのか！？　わ、分かった、だからこれ以上は近づくな！

いや、俺はガンダムだ！（後書き）

適当に書きました。次へLet's go！

ああ、チヨリース！

ガンダム002306の、沙慈とルイスと、転入生の会話後

なのはside

私、高町なのは、今は訳ありで、私の学校と何個かの学校が火事で燃えてしまったので、今は、別の学校にいます。

多分今さっきの変な転校生と、あの無口な転校生も、その理由で転入してきたのだとおもう。

さっきまでフェイトちゃん達と話してたけど、皆席に戻ってしまったので、よ私は今、次の授業の準備をしています——ってこんな事を言ってる間に先生が来ちゃった！

「朝の挨拶、すなわちおはようと言う言葉を謹んで贈らせてもらおう」

「おはようございます。ハム先生！」

先生は、いつも通り、変な挨拶をしながら教室に入ってきた。そして、いつも通りに沙慈君が挨拶を返す。

「既に私は挨拶をした」

先生は、そんな解りきったことを言うと、教卓の椅子に腰掛ける。「解ってまーす」

そしてルイスちゃんがさらにそれを返す。

彼は、グラハム・エーカー先生。25歳の若くてイケメンな先生で、皆から付けられている愛称は、『ハム先生』。ちなみにハム先生は、学校で教師をしながら、ユニオンの軍隊に所属している軍人の先生です。階級は中尉。はやてちゃんに負けているのは気にしないであげて下さい。

ハム先生は、刹那君に気がついたのか、「ん？」と言って、刹那君の方を向く。

「そこにいる君」

ハム先生は、刹那君に話掛ける。そして、先生は、何かを感じたのか、一回頷く。

「ほう、君か。噂の着任者と言うのは……。よくぞ来た！ このグラハム・エーカーが、君の着任を歓迎しよう」

いや、ここ、軍隊じゃないですよ。と私は少しツツコミをいれる。そして、話掛けられた刹那君の方を向くと、彼の口からとんでもない言葉がとびだした！

「ちよリーす」

やばい、これは本当にやばい。ハム先生は、その言葉を聞いて、拳を握り締め、身体を震わせていた。

「い、今なんと？」

ハム先生が、そう言った瞬間に、クラスの空気は、一気に静けさを増す。

私は、その二人を見ながら、どうなるかを見守っていた。だが、刹那君から、またもやあの言葉が飛び出す。

「チヨリース！」

その瞬間、私達は感じた——終わったと。

だが、その後の展開は、凄く意外な物となった。

なんと、ハム先生の顔は、嬉しそうな顔をし、頬を少し赤らめていたのだ！

「少年！ 君の名は？」

ハム先生は、興味深々で刹那君に聞くと、沙慈君が答える。

「刹那・F・セイエイ君です」

「ちよリーす」

刹那君が、沙慈君の言葉を追う様にしゃべると、ハム先生は、更に嬉しそうな顔をし、話を続ける。

「良い目をしている」

「ちよリーす」

「な、なんとと言う魅力的な挨拶だ！」

ハム先生が、壊れた様な事を言うと、ルイスちゃんが、

「うっざいだけです」

と皆の心を代弁するようなことを言った。

「ちよりーす」

さっきの様に、刹那君が、他人の言葉を追って話すと、ハム先生は、立ち上がり、刹那君に近づきながら、思い出したかの様に、自己紹介を始める。

「そうか、自己紹介がまだだったな。私の名はグラハム・エーカー。ご覧の通り、軍人だ」

「教師です」

「ちよりす」

ハム先生のいったことを遮る様に、沙慈君は、言った。確かにこの場で軍人と言うのは、ちよっとおかしい。

そして、刹那君の、うざい挨拶をまた聞いた先生は、更に興味深々な顔をして、更にこの場に似つかわしくない事を口にした！

「刹那・F・セイエイ！ 私は、君と言う存在に心奪われた男だ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9364u/>

魔法少女リリカルなのは？VS魔法少女まどか まじか？ これはゾンビです

2011年7月25日03時31分発行